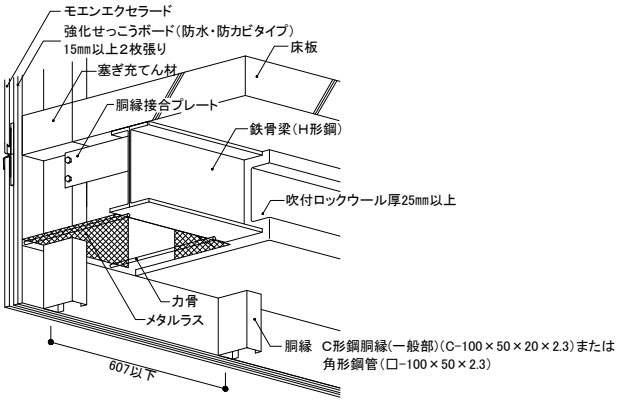
梁取り合い部

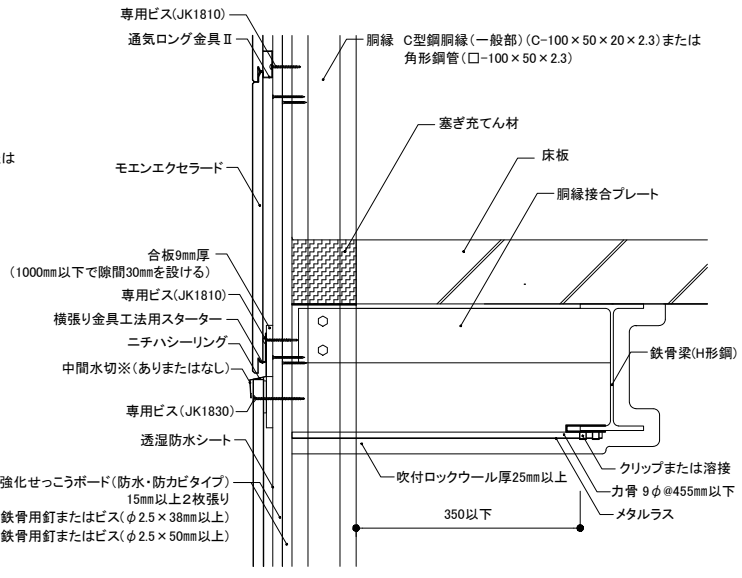
FP060BM-0573
（H-200×100×5.5×8㎜以上）

■梁部耐火被覆材の施工

●ラス下地工事は、力骨を鉄骨梁に溶接などで取り付け、メタルラスを鉄骨梁と外壁の間に結束線で張り付けます。
●鋼材下地表面の浮き錆および付着油など、吹付ロックウールの付着性に支障を起こすおそれのあるものは十分清掃してください。
●吹付下地の取り付け
〇下地は455㎜以下の間隔で力骨（φ9㎜丸鋼）の一端を鉄骨へクリップまたは溶接で固定し、メタルラスを力骨へ200㎜以下の間隔で緊結します。ただし、外壁と鉄骨下地との取合部間隔が45㎜未満の場合は、その部分の吹付下地が省略できます。なお、取合部間隔は350㎜以上にはできません。
〇中空タイプのメタルラスの張り付けは中空の形状に応じて、鉄骨周囲の吹付面にメタルラスを張り付けてください。
●養生
〇施工前は、吹付による材料の周囲への飛散防止ためシートなどで養生します。
〇施工後は、吹付作業が完了した部分が、衝撃および雨水などで障害を受けないよう適切な養生を行います。
〇寒冷地では厳重な凍結防止対策養生を行います。
〇吹付仕上げにはコテ押さえをしてください。
●被覆材（吹付ロックウール）の施工
〇吹付作業は、材料の配合、吐出量の調整および吹付作業について、ロックウール工業会編「吹付ロックウール被覆耐火構造施工品質管理指針」に従い、規定の品質を確保してください。
〇ロックウール工業会指定の測定具で、吹付け面積5㎡ごとに1ケ所以上、ロックウールの厚さが25㎜以上を確認しながら施工します。
●外壁の施工
外壁の施工は、外壁耐火構造各部納まり図をご参照ください。

■鉄骨梁（200×100×5.5×8㎜以上）





※認定書別添の内容をご確認ください。

※図は緩衝目地を想定した中間水切ありで表現しています。